

安曇野ふるさと寄附金 令和5年度活用事業報告



(長峰山から北アルプスを望む)

安曇野ふるさと寄附金を活用して
令和5年度に実施した事業の概要をお知らせします。
多くの皆さまからの温かいご寄附に感謝申し上げます。

令和5年度は、安曇野ふるさと寄附金として **6,745 件 591,347,000 円** の
ご寄附をいただき感謝申し上げます。寄附者の皆さまのご意向に沿って大切に活用させていただきます。



募集テーマ別	件数	寄附金額
1 いきいきと健康に暮らせるまち	2,719 件	258,890,000 円
2 安全で安心に暮らせるまち	591 件	38,585,000 円
3 学び合い 人と文化を育むまち	649 件	79,980,000 円
4 魅力ある産業を維持・創造するまち	772 件	89,707,000 円
5 自然と暮らしやすさが調和するまち	1,290 件	80,225,000 円
6 みんなでとにつくるまち（市長選定施策）	724 件	43,960,000 円
合計	6,745 件	591,347,000 円

たくさんの応援メッセージありがとうございます！ほんの一部ですがご紹介します。

- ★安曇野は第二の故郷です。応援しています。
- ★毎年バードウォッチングや登山で訪れています。豊かな自然とバランスがとれた発展を願っています。
- ★常念岳のおおらかさ。田園を抜けていく大糸線。風に揺れる瑞穂。安曇野は本当にうつくしい！
- ★あの景色はどこにも負けません。いつも癒しをありがとう。
- ★美味しいお蕎麦、りんごを毎年楽しみにしています。★安曇野のわさび大好きです。
- ★信州安曇野ハーフマラソンで訪れ、皆さんの声援に背中を押していただきました。
- ★緑あふれる素敵な安曇野を今後も応援します！



あぶふーる

他にもこんな事業に活用しました

仕事の創出・企業の支援

若者や女性が起業しやすい環境を整えるとともに、新規起業等に対する支援を行っています。U I J ターン就業・創業移住支援をはじめ、セミナーの開催、テレワークセンターの運営を行い事業者支援を行いました。また、主要産業である製造業等の基盤強化につなげるため、企業誘致、企業留置、雇用機会創出の各補助メニューを充実させました。老朽化に伴う既存設備の更新や時代の変化に対応した保有設備の高度化を支援し、地域産業の後押しをしています。

少子化対策

不妊・不育症治療は長期にわたるため経済的負担が大きいことから、不妊治療を行っている夫婦の経済的な負担軽減のために治療費の一部を助成しました。この事業により、妊娠が成立することで、少子化対策としての成果にもつながっております。

また、感染症の発生及びまん延予防のために、対象者が適切に予防接種が受けれるように接種券を発行しました。また、予防接種法に基づく定期の予防接種以外の任意の予防接種について、妊婦と小児（生後6か月～12歳（小学6年生相当））を対象に市が独自に支援を実施し、安心して出産・子育てができる環境づくりにを目指しています。

妊婦・乳児の健康の保持増進のために、健診費用の一部を助成し、妊婦に対しては、基本健診14回分と超音波健診4回分、血液検査5回分を、乳児に対しては、3か月から11か月の間に1回分の補助を行い、経済的負担の軽減をはかりました。少子化対策として今後も各種事業を実施していきます。

有害鳥獣駆除対策

安曇野市鳥獣被害防止計画に基づき、有害鳥獣捕獲や個体数調整・防除業務、ツキノワグマ学習放獣業務、二ホンザル農作物等被害対策業務、狩猟者確保支援事業を実施しました。近年、被害が大きい二ホンザルにGPS首輪発信機を装着し、「追払い隊」が群れを山へ追払う業務を実施しました。様々な対策を行い農作物等被害の軽減に努めています。

移住定住の促進

首都圏で移住セミナーや個別相談会を開催し、移住を希望している方々へのサポートを行いました。令和5年の「毎月人口異動調査（長野県）」による安曇野市の転入超過数は、407人となりました。また東京で開催した「信州安曇野ぐらしPR展」へは約3,000人の来場があり、多くの方に安曇野市の魅力を伝えることができました。今後も「住んでみたい、住み続けたいまち」を目指し、移住希望者のニーズに応じた相談体制、情報発信に努めます。

皆さまからいただいたご寄附は、安曇野市の発展のため、これからも大切に活用させていただきます。

今後とも安曇野市へのご支援をよろしくお願いします。



らいすん



（お問い合わせ先）

安曇野市役所 総務部 総務課 総務係

〒399-8281 長野県安曇野市豊科 6000 番地

TEL 0263-71-2408（直通） FAX 0263-71-5155

E-mail furusato@city.azumino.nagano.jp

オーストリア・クラムザッハとの国際交流

姉妹都市クラムザッハとの姉妹都市提携 30 周年の節目となる令和 5 年度は、コロナ禍で中断していた相互訪問事業を再開し、公式訪日団の受入及び公式訪問を実施しました。交流事業を通じ、広い視野と国際感覚を身に付けた人材の育成を目的に、豊科高校書道部や地域通訳案内士の皆様とも触れ合いなど若い世代の交流を行うことができました。



30 周年記念の書道を囲んで記念撮影

国際的視野およびコミュニケーション能力をもつ人財の育成



外国語指導講師（ALT）課外授業風景

小中学生の国際的視野の育成とコミュニケーション能力の素地を養うため、小学校 4 校、全 7 中学校に外国語指導講師（ALT）を配置しています。多くのコミュニケーションの機会を得られるだけでなく、ALT から海外の文化や国際的な視野を学ぶことができました。今後もネイティブな英語に触れることにより、英会話力の向上を図っています。

DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

母子健康手帳アプリ「母子モ」を活用し、小児予防接種サービスのデジタル化に取り組みました。予診票の記入や予防接種のスケジュール管理、接種履歴等の確認をアプリ内で行うことで、保護者の不安と煩わしさを解消し、簡単・便利で安全・安心な予防接種を実現しました。デジタル予診票を利用した保護者のうち、約 9 割の方から「利用して良かった。」という声をいただきました。



小児予防接種サービスのちらし

災害発生時に備えるため、防災用品の購入補助や備蓄品を購入



市民が購入した防災用品の一例

災害発生直後には、被災地域への流通の停滞が予想されます。そこで、住民の生命を守るため、備蓄計画に基づいて、備蓄品として、食料・飲料水・日用品、資機材等を購入しました。
災害発生直後の流通機能の麻痺に備えて、備蓄体制の充実を図ることができました。

農業振興と特産品の玉ねぎ振興

安曇野市の基幹産業である農業振興を図るため、市の振興作物である麦・大豆、果樹等の生産を支援し、生産意欲の向上と作付面積の拡大を図りました。また、特産の玉ねぎの振興として、毎年「玉ねぎ祭り」開催し、参加する消費者から好評を得ております。今後も産地としての認知度向上と生産振興が図られるような事業実施を目指します。



玉ねぎ祭り（収穫体験）の様子

高齢者の生きがいと健康づくり



アクティブシニアがんばろう事業

健康増進や介護予防のために定期的に健康づくりの活動を行う高齢者の自主活動団体を補助し、活力あるまちづくりを促進しました。また、70 歳以上の方や、一定の障がいのある方が外出して心身共に健康に過ごせるよう、市内の入浴施設で利用できる入浴料金割引券を交付しました。今後も、事業を継続し、高齢者の生きがいと健康づくりや、障がい者等の外出支援をしていきます。

令和5年度活用事業のご紹介

令和5年度に安曇野ふるさと寄附金を活用した事業を紹介します。

安曇野市では、6つのテーマから寄附者が希望されたテーマに沿って、各種事業に寄附金を活用しています。また、平成27年に「安曇野市ふるさと寄附基金条例」を制定し、寄附金の一部は基金に積み立てたうえで、募集テーマに沿った事業に活用しています。

そばっぴ

スケートボードひろば整備



スケートボードひろば

若者を中心に利用されているスケートボードひろばに、セクション（障害物）を設置し、初級者から上級者まで楽しむことのできる施設としてリニューアルしました。オリンピックの効果もあり、多くの方が利用する施設として活用されています。

フォトコンテストで観光プロモーション

安曇野の魅力を国内外に発信し市への来訪をしていただくため、WebやSNSなど様々な媒体を活用したプロモーションを行いました。Instagramフォトコンテストを開催し、テーマとして「安曇野暮らし」「アウトドア」「山岳」の3部門を設けました。市内外問わず幅広い世代の方からの応募があり、安曇野をより多くの人に知ってもらうことができました。

山岳部門・最優秀賞作品



第9回信州安曇野ハーフマラソン開催



3年ぶりにランナーが安曇野を走る

交流人口の拡大と、スポーツによる地域振興を目指して、毎年6月にマラソン大会を開催しています。北アルプスの残雪と豊かな田園風景の中、5,784人のランナーが出走しました。申込者の8割以上が市外からのエントリーで、大変人気のあるマラソン大会となっています。当日は約700人のボランティアにも協力いただき、地域の活性化にも繋げることができました。

子育て世帯の経済的負担を軽減のため、給付金を支給

第2子以降の児童を教育・保育施設を利用せずに家庭で保育している養育者に対して、子どもの消耗品などの購入に充てることにより、経済的負担の軽減を図るため、子ども一人あたり月額3,000円の子育て応援手当を支給しました。



事業案内チラシ（一部抜粋）

児童クラブの環境を整備

小学校4年生までの受け入れを6年生まで拡大するため、市内の3つの小学校で教室等の改修を行いました。保護者のニーズに答えるとともに、児童に安心・安全な環境を提供することができました。



一児童クラブ室の様子